

海 底 写 真

木下 泰正

Yasumasa KINOSHITA

ここに紹介する写真は 日本近海の底質調査で得られたものである。撮影には スミス・マッキンタイヤ型グラブ採泥器に米国 Benthos 社の Utility camera を取付け海底撮影と同時に底質の採取を行った。この装置が海底上 2 m まで降下すると まずロープで吊したコンパスが着底しカメラのスイッチが入り 海底が撮影され その直後にグラブ本体が着底し 撮影された海底の一角を採取するものである。このように底質の採取と 海底の撮影が同時に行われるようになり 海底の岩

石の産状 底質の分布状態 海底露頭の観察が容易に行われるようになった。さらに海底写真は海水の懸濁状態や底棲生物の分布・生態をわれわれに示して 海底における堆積環境がいかなるものかを教えてくれる。底質調査には非常に有効であり 今後このように観察と採取とを同時に行う方法がさかんに行われるようになるであろう。

尚 写真中のコンパスの白円の大きさは 58 mm である。

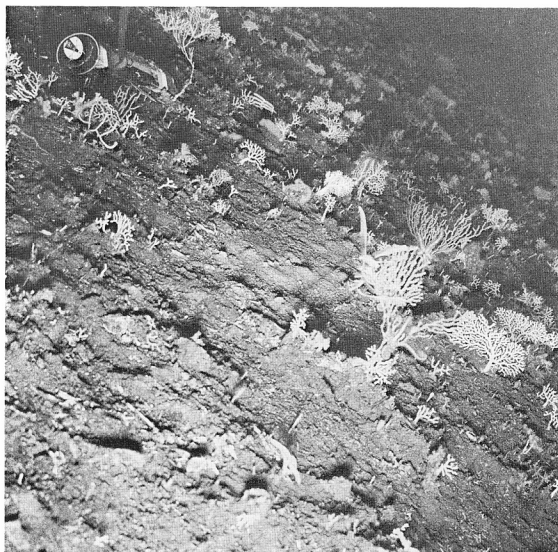


写真1 八丈島北方の新黒瀬頂部。水深 375m。海底は平らな石灰岩が露出し 一面に赤いサンゴが生息する。斜めに上から撮影すると 海底の特徴が鮮明に把握される。

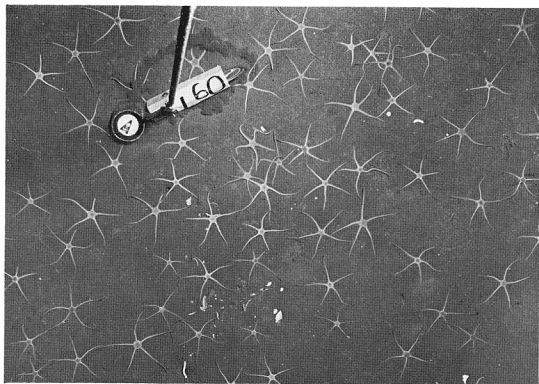


写真2 北海道北東岸紋別沖。水深148m。群棲するクモヒトデ類。底質は極細粒砂。



写真3 北海道北東岸紋別沖。水深82m。細粒砂の海底に分布する海鰻類(?)。いずれも南東側へなびていることから南東方向への底層流が推定される。



写真4
沖縄南西岸沖。水深190m。細
粒砂の海底に着棲するカイロウド
ウケツ。



写真5 北海道北東岸紋別沖 紋別海脚。水深116m。露岩地帯に生息する二枚貝カミノシキ *Chlamyis landica*
erythrocomata (DALL) の生態。貝殻の表面は海綿に覆われている。



写真6 八丈島北方 新黒瀬周辺. 水深610m. 中粒砂の海底に形成された非対称砂漣.



写真7 富山湾能登半島北東岸沖. 水深18m. 細粒砂の海底に形成された砂漣.